

LINE を使用したがん対策について

今回、提案させて頂きたい事は、LINE やマイナンバーカードのシステムを利用した、がん患者の新しいサポートの方法です。

きっかけは、アピアランス支援事業なんですけど、早速、患者会の方でも紹介しようと、詳しい申請方法を確認させて頂いたんですけど、支援を受けるまでに、やる事がたくさんあるんだなという印象でした。

例えば、何らかの形でアピアランスの支援を知って、支援を受けたいと思ったら、まずはがん相談支援センターへ相談、相談履歴が必要なので、相談日のメモを取っておきます。

続いて、ウィッグや補助器具などを購入し、領収書の確保。

領収書の他に、必要な書類が、病気を証明できるもの、例えば入院計画書等。そして、身分証、市町村によっては、市税等の滞納がないことを証明できるもの、と記載がある場所もありました。最後に振り込み先の用意です。

これらの書類が用意出来たら、助成金交付申請書と共に、役場の保険課など、窓口へ提出、もしくは郵送です。

■アピアランス支援の申請の流れ

- ① がん相談支援センターへ相談(相談履歴が必要)
- ② ウィッグ、補助器具の購入、領収書の確保
- ③ 必要書類を揃える(病気の証明、身分証、振込先、市税の滞納がないことを証明できるもの等、助成金交付申請書)
- ④ 役場の保険課など、窓口、もしくは郵送にて書類提出

これは、よくある申請の、普通のステップではあります。ただ、これが、告知後の、これから治療を受けられる、もしくは受けている患者さんがやるとなると、正直私はハードルを感じます。

もう少し工夫して、告知後に体調を崩している患者さんや、メンタルの安定しない患者さんでも、申請のしやすいフローに出来ないかと、考えてみました。

私は、エンジニアの知識を持ち合わせていないので、どこまで実現可能かわかりませんが、患者の目線で、あったら便利だなと思う所をお話したいと思います。

まず、冒頭でもお話した、LINE とマイナンバーカードのシステムを利用した、新しいサポートの方法ですが、もうすでに全国で運営されているサービスで、LINE ドクターというものがあります。知っている方もたくさんいらっしゃると思います。

私は子供が3人いますが、全員アレルギー持ちで、家の近くのクリニックで検査をして、舌下治療をしています。そのクリニックではLINE ドクターをやっていて、先生にすすめられたので、次回から LINE ドクターで診察を受けて、お薬をもらっております。

予め LINE 上で、保険証や医療証、お薬手帳等を写真を撮って登録しておき、LINE で予約をしたら、その時間に先生からビデオ通話がかかってきます。診察が終わったら、私の通うクリニックの場合は、登録しておいた好きな薬局でお薬を受け取る、という流れです。

※参考までに、LINE ドクターのスマホの画面を記載しておきます。



書類の登録はスマートフォンで撮影するだけなので、簡単です。

各種書類を登録

お薬手帳 健康診断結果

医療証 本人確認書類

その他 (紹介状など)

おくすり おくすり

年月日	名称・用法	年月日	名称・用法
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—

+ 追加する

① 直近の処方に関するページを写真に撮り、登録してください。登録可能な画像は10MB以下です。

保存する

また、他にも LINE のサービスで、私が注目しているのが、LINE が取り組んでいる、地方公共団体のスマートシティ化で、「持ち運べる役所」と題して現在たくさんの地方自治体が公式 LINE を運営していて、市民にとっても大変便利な仕組みが出来ています。

私の住む地域はうるま市なので、私もうるま市の公式 LINE を登録しています。LINE 上で検索して、お友達に追加するだけなので、見つける事も簡単ですし、QR コードなどあれば、さくっと読み込むだけで追加できます。

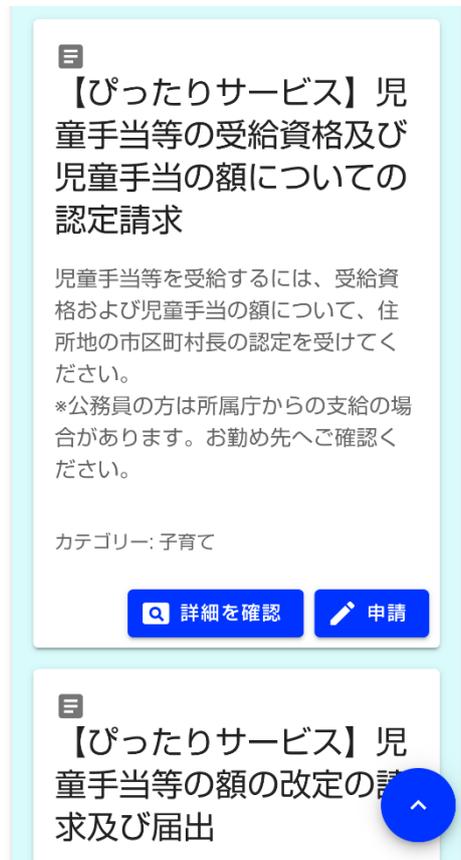
この市町村の公式 LINE で何が出来るかといいますと、こちらのスクリーンショットをご覧ください。



基本メニュー、お役立ちツール、アプリなどタブがありまして、自分の欲しい情報にアクセスしやすくなっています。

左下のメニューに電子申請というものがあるのですが、これまで、直接市役所に出向いて、もしくは郵送で手続きしていたものが、オンライン上で申請することが出来るようになっています。

たくさん項目がありますが、例えば、児童手当に関する申請、スマホがあれば、すぐに公式 LINE から申請可能です。



また、受信設定からは、Push 配信の選択ができ、緊急情報、イベント、くらの情報の大きなカテゴリーから、更に細かく受信設定が選択できます。



市町村ごとに特徴は異なるとおもいますが、粗大ごみの申請ができたり、とても便利になっています。

もちろん、沖縄県だけの仕組みではありません。全国規模で、広がっています。

私の調べる限り、沖縄県内でもこれだけの市町村の公式 LINE があります。

沖縄県	https://page.line.me/okinawa-government
那覇市	https://page.line.me/kouhou.nahacity
宜野湾市	https://page.line.me/okinawa-ginowan
石垣市	https://page.line.me/xat.0000132795.amo
浦添市	https://page.line.me/urasoecity
名護市	https://page.line.me/nagocity
糸満市	https://page.line.me/itomancity
沖縄市	https://page.line.me/okinawacity
豊見城市	https://page.line.me/tomigusuku_city
うるま市	https://page.line.me/uruma
宮古島市	https://page.line.me/miyakojima-city
南城市	https://page.line.me/nanjo.city
大宜味村	https://page.line.me/ogimi
東村	https://page.line.me/higashi-vill
今帰仁村	https://page.line.me/nakijin2021
本部町	https://page.line.me/motobu
恩納村	https://page.line.me/onna-sangonomura
宜野座村	https://page.line.me/ginoza2018
金武町	https://page.line.me/kin_town
読谷村	https://page.line.me/yomitanvill
嘉手納町	https://page.line.me/kadena
北谷町	https://page.line.me/chatan.town
北中城村	https://page.line.me/kitanaka.vill
中城村	https://page.line.me/nakagusuku
西原町	https://page.line.me/nishihara_town
与那原町	https://page.line.me/yonabarutown
南風原町	https://page.line.me/haebaru
南大東村	https://page.line.me/minami_daito
久米島町	https://page.line.me/kumejima
八重瀬町	https://page.line.me/yaese
竹富町	https://page.line.me/taketomicho
与那国町	https://page.line.me/129-yona.nanta_ten

そして最後に、マイナンバーカードですが、保険証の代わりになる事はもうすでにお分かりだと思います。私は、去年、入院もありましたが、通院もたくさんあり、60回分くらいの領収書があったのですが、医療控除の申請が、マイナンバーカードのマイナポータルから、家にいながら、申請できました。

医療履歴が分かるので、たくさんある領収書をまとめて、申請に行かなくても、できました。

ご高齢の方は、スマホの操作が難しい所もあるかと思いますが、ここ15年くらいで、スマートフォンが普及して、今は小学生でも持っている子は、珍しいことではないと思います。

スマホを持っている方は、ほぼ100%と言ってもいいくらい、LINEのアプリを持っていると思います。2024年、5月現在、日本におけるSNS利用シェアNO.1はLINEで9500万人の利用者があり、日本人口利用率93%と伺いました。

これだけの普及率のあるアプリであれば、がん相談支援の為に、公式アカウントを持つ価値があると感じました。そこで、本題に入りたいと思います。

私は、こういった、今もうすでにある仕組みや、サービスをうまく組み合わせて、患者さんが情報を受け取りやすく、支援の受けやすい流れを作れるのではないかと考えています。

先ほど、アピアランス支援事業の申請方法について触れましたが、例えば、がん支援センターの公式LINEがもうすでであり、マイナンバーカードや、地方自治体と連携が取れるという設定で提案させていただきます。

行政のシステムを完全に理解しているわけではありませんが、私の提案するLINEを利用したアピアランスケアの申請フローがこちらです。

■まずは告知。先生や看護師、どちらでも構わないと思うのですが、告知とセットという感覚でもいいと思います。早い段階でがん相談支援センターとの連携の為に、がん相談支援センターとのコンタクトを促します。

LINE公式アカウントのパンフレットや、すぐに登録できるように、QRコードの記載のある、チラシを配布してもいいかと思います。

どんなに新しい支援が出来ても、周知できなかつたり、支援を受ける人がいなくなったら、ないのと同じかと思います。様々な情報をしっかりうけとれるよう、患者さんが損をしないように、治療に直接関係ないと思いますが、ここは強くお願いしたいところです。

■基本的には患者さんが、がん相談支援センターへ来て、対面で相談。ヒアリングを行いながら、LINE公式アカウントの登録をお勧めします。アピアランスケアの申請方法などもお伝え頂ければと思います。（どうしても体調の悪い方は、ビデオ通話もいいと思います。）

■患者さんが、ウィッグや補助器具を購入後、公式LINE上から申請。（マイナンバーの連携で、病気の証明などを省略できたらと思います。また、省略できなくとも、スマホで写真を撮って、送信できるような仕組みがあるといいと思います。）

■申請の際は、役所に出向かなくてもすむように、がん相談支援センターのLINE公式アカウントから、各市町村の申請ページに飛べるように仕組みを作れたら、患者さんが迷子になることなく、負担が減るのではと思います。（その為には、がん相談支援センターの公式LINEと連携が取れるよう、各市町村の申請ページの用意が必要です。）

また、公式LINEに登録しておけば、アピアランス支援に限らず、新しく始まった支援をダイレクトにお知らせすることが出来たり、知らないと損してしまうような情報を、患者さんがもれなく、しっかり受け取れる流れを作っていけるのではないかと思い、以上を提案させて頂きたいと思います。